

# 特別活動プロジェクト研究通信(No. 3)

## 「なりたい自分に向けてがんばる力」を育てる小学校の特別活動 —学級活動における個々の意思決定とそれに基づく実践の充実を通して—

8月23日(金)、滋賀県総合教育センターにて、第3回研究会を開催しました。研究会では、研究員の先生方に作成していただいた指導案を基に、研究協議を行いました。研究協議の中で、本研究のトータルアドバイザーである、帝京大学教育学部 安部恭子教授と、専門委員である、県教育委員会幼小中教育課 川端清司主査から指導助言をいただきました。また、安部先生からは「『なりたい自分に向けてがんばる力』を育てる学級活動(2)(3)の指導の充実」と題し、御講義いただきました。本通信では、安部先生と川端主査に教えていただいたことや、研究委員の先生方の学びについてお伝えします。



がっかつにいさん

### 豆知識

学級活動(1)はみんなで選んだ議題について話し合い、合意形成を図ります。学級活動(2)(3)では個人目標を意思決定し、個人で実践します。

帝京大学教育学部教授 安部 恭子 先生の御講義より

### 「なりたい自分に向けてがんばる力」を育てる 学級活動(2)(3)の指導の充実



- 学級活動は内容によって特質が変わります。学級活動(1)はみんなで考えみんなで決めてみんなで取り組むことですが、(2)(3)は「子どもが～と言ったから～しよう」ではなく、**年間指導計画に基づいて行う**ものです。
- 全国学力・学習状況調査児童質問紙の「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問があります。どの学校、学級も自分の目標を立てる活動はやっているのに、結果では、否定的に回答している児童が少なからずいます。それはなぜか？互いの意見のよさや話し合いを生かしていないからだと考えます。だから学級活動だけでなく、**普段の学習でも多様な意見を出し合うこと、みんなの意見を大切にすることを指導**してははいけません。
- 学級活動(2)(3)は指導者が題材を適切に設定します。(2)は自分の今の課題を解決する内容です。友だちへの関わり方、歯みがきの仕方など、自分の課題の原因を考え、意思決定します。(3)はキャリア形成です。キャリアとはラテン語で轍(わだち)です。自分の可能性に気づきながら、なりたい自分になるために今何をがんばるかを考えます。**なりたい自分を目指すことは同じでも、(2)と(3)の特質の違いを意識することが大切です。**
- なりたい自分を目指して解決方法を考える際は、自分のことだけでなく、友だちの解決方法も考え、みんなでアイデアを出し合うことが大切です。**何を話し合うのかを明確にもつ必要があります。また、話し合いは学級での話し合いにしないといけません。ただ単にグループの意見を掲示し、その中から選ぶでは集団志向になっていません。**学級全体での話し合いが大切です。**
- 目標は決めっぱなしにせず、**実際に実践してみて、振り返って、修正することが大切です。**
- 学級活動(2)(3)では**養護教諭、栄養教諭、ゲストティーチャーなどと連携するとより効果的**です。
- 記憶は薄れるけれど記録は残ります。**キャリアパスポートを活用して成長の記録を残し、振り返ることが大切です。**



- ・そうじの達人になりたい、自主学習に取り組みたい、運動会を成功させてリーダーになりたい、子どもの中にはそう思えない子もいます。**何のためにするのか、どんなよさがあるのか**が子どもの中にストンと落ちれば、自ずと目標を立てて取り組んでいくと思います。そのためには授業以外にも心を耕しておくことも必要です。**大切な視点は「自分のため」「仲間のため」「学校のため」**です。
- ・先生方は6年生(最高学年)にどんな姿を求めていますか?その姿を明確にもち整理できれば自ずとやることが見えてきます。**どんな最高学年になりたいのかを明確にし、それに向けて今は～をがんばるという形にします**。運動会に向けてがんばる子がいていいし、そうじ、普段の授業など日常生活でがんばる子もいていいです。全員がリーダーになれる縦割り活動も有効です。
- ・教師はがんばることが当たり前だと思いがちなので、「がんばっていますか?」という聞き方は教師の圧がかかってしまいます。**学級活動(3)では成長を振り返り、「さらによくするには」というポジティブな観点が大切です**。

## 研究委員の先生方の振り返りより

- ・子どもが今までがんばってきたことや、役割を果たす意義、他者からの評価によって、自分のがんばりに気付く活動を学習の中に取り入れていきたいと思いました。また、児童が学級で学んだことを、児童会活動を通して、全校に広めていきたいと感じました。
- ・解決方法を話し合う際は自分のことだけを考えるのではなく、みんなのことを全体で考える視点が大切であることを学びました。また、子どもたちの1年間のゴールを見据えて特別活動に取り組む大切さを自校でも広めていきたいです。
- ・学級活動(2)は現在の自分の課題から目標を考えること、(3)は将来に向けたものであることなど、学級活動(2)と(3)の違いを知ることができました。研修の中で「具体的」「何のために」「なりたい自分の姿」という言葉を多く聞きました。自分の指導案づくりに生かしていきたいです。
- ・「主体性」というキーワードを教師が大切にすることが必要であると感じました。子どもたちは本当にそれをやりたいと思っているのか、そう思えるように日頃から手立てを打っておくことが大切であるとわかりました。



がっかつにいさん

### 研究員の編集後記

様々な方と話し合うことで、これまで自分にはなかった新たな視点をもつことができ、大変有意義な時間となりました。研究委員の先生方にもそう感じていただけた研修になったのではないかと思います。今回の学びを今後の研究にも生かしていきます。御指導をいただいた安部先生と川端主査、参加していただいた研究委員の先生方、出張に御配慮いただいた実践校の先生方、様々な方々のお力で実りある研修が実現しました。本当にありがとうございました。